

守口市立小・中学校等の在り方について ～子どもたちが主役の魅力ある学校づくり～（答申）【概要版】 令和4年3月

I. 子どもたちが社会とのつながりの中で学び、 自分の力で人生や社会をよりよくしたいと思う、学びを目指す

急激に変化するこれからの社会で他者と協働して課題を解決し、
人生、生活、社会を豊かにするためには「資質・能力」の育成が必要

「資質・能力」とは「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の育成等の涵養」等の力を意味する

そのためには？

「主体的・対話的で深い学び」を通して、すべての子どもたちが「わかる」「できる」「おもしろい」授業づくりを推進することが大切

学校運営協議会を中心とした、育成を目指す子ども像の共有、協働

具体的には？

- ・地域住民、保護者の参画意識の醸成
- ・大学、企業など多方面からの協力拡大
- ・全市的な情報共有、市内外ボランティア募集などを教育委員会が支援

さつきフレンド（さつき学園学校運営協議会）の取組みを参考に

- ・名前の由来：多くの学校支援ボランティアとの協働活動の意味を含め、親しみやすい名称に
- ・目標：「地域とともにある学校をつくる」
- ・活動内容：行事カレンダーの作成、読み聞かせ、学習支援 等々



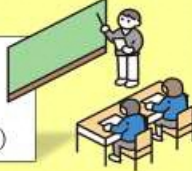
III. 子どもたちが安全・安心な学校生活を送り、多様な学びが可能 となる学習環境を実現する

多様な子どもたち一人一人が主体的・協働的で深い学びを行う学習環境

「主体的・対話的で深い学び」や、子どもたちの特性や学習の定着度に応じた学習など、
様々な学習形態で学ぶことができる教室、設備や教材などの学習環境の整備が必要

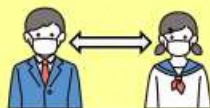
具体的には？

- ・十分な広さの運動施設、充実した図書館、保健室などの生活空間、教職員の執務環境の整備等
- ・情報通信技術を活用した学校教育の質的向上
- ・全ての子どもたちの義務教育を保障（インクルーシブ教育システム）



子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保できる環境

・自然災害への備えや感染拡大期における、人と人との間隔の確保や分割授業を実施可能な空間の確保



・熱中症から生命を守り、授業や部活動等を、安全かつ快適に実施できるよう屋内運動場への空調を整備

II. 子どもたちが成長を実感できる、連続した学びを目指す 連続した学びとは...

就学前から義務教育修了後を見通した学び

幼児教育と小学校教育を接続し、小中一貫教育を次の段階へ

小学校におけるスタートカリキュラムを充実させ、
全ての中学校区では特色ある小中一貫教育を充実させるべき

地域や社会の課題解決に参画する態度の育成

一人一人の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育や郷土を愛する心を育む教育を充実させるべき

具体的には？

- ・小学校教員と認定こども園・保育所、幼稚園教諭等の研修や情報交換会の推進
- ・キャリア・パスポートを使った学習に対する助言
- ・キャリア教育ガイドブックの作成 etc.



小中一貫教育の充実

全ての中学校区で、特色ある小中一貫教育を充実し、義務教育学校
や併設型小・中学校を目指すべき

これまでの取組み（錦中学校区）

小中連携教科指導のための加配教員を配置し、算数・数学について、
体系的なカリキュラムの計画・実施し、小学校算数でつまづきやすい内容
（小数や図形など）の定着を目指している



IV. 子どもたちが社会性を育み、協働できる学校を目指す

集団生活や教科指導が可能な学校規模・配置の最適化と今後の適正規模・適正配置の在り方

これまで...

守口市学校規模等適正化基本方針（平成24年3月策定）に基づき、学校規模の適正化を推進

今後は...

- ・適正規模化は長期的な人口動態等の推移を見つつ、統合の適否は学校運営協議会で議論するなど丁寧にを行うべき
- ・条件が整えば義務教育学校の設置を検討すべき
（特に八雲中学校区と錦中学校区などは具体的に検討すべき）

【例：義務教育学校への統合イメージ】



【例：併設小学校・中学校への再編イメージ】



これらを踏まえ教育委員会は...

学習環境向上のため、「守口市学校規模等適正化基本方針」を改訂する必要がある

社会に包容された学校を目指して

- ・学校施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入等の積極的な推進（2050年脱炭素社会の実現など）をすべき
- ・学校以外の公共施設（コミュニティセンター、こども園など）との複合化の検討をすべき



守口市立小・中学校等の在り方について ～子どもたちが主役の魅力ある学校づくり～（答申）【概要版】

はじめに

守口市の発展



旧京街道や守口街道、淀川の舟運を通じて全国各地から守口へ人の往来

街を大きく発展させた

守口市は、多くの人々から新しい考えを積極的に取り入れ、郷土の発展に活かす進取性に富んでいた。

現代に求められている力

情報技術の発展、産業や社会構造、人口動態の変化が著しい時代だからこそ求められている力とは？

守口市の強みを発揮する

- ・進取の気性に富み、新たな価値を創造できる力
- ・多様な価値観を尊重し、他者と協働する力

本答申の特色とは？

守口市らしさを出すために

市立の各学校で、創意工夫している具体的な取組などを出来る限り盛り込む。

市民の皆さんと共有するために

より多くの方々が、本答申を読んで、魅力ある学校づくりに参画していただきたいという願いを込め、可能な限り分かりやすい表現や注釈に努める。

諮問の概要

- 1 新しい時代の学びの実現
- 2 心身の健康を守り、安全・安心を確保する学校の実現
- 3 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校の実現

答申の基本理念

社会の在り方が劇的に変わる時代において、守口市の子どもたちをどう育てていくか

2030年の子どもたち一人ひとりが主役の魅力ある学校づくり

- 「小・中学校9年間を見据えた学びの充実」
- 「地域との協働やICT活用の視点を取り入れた、新しい時代の学校教育」

審議の経過

●令和3年7月

令和3年度守口市新しい学校・園づくり審議会へ諮問

委員は市民、学識経験者、学校関係者の計17名で構成



【諮問書手交の様子】

●令和4年3月 計6回の会議を経て答申

答申の構成

I. 子どもたちが社会とのつながりの中で学び、自分の力で人生や社会をよりよくしたいと思う、学びを目指す

1. これからの社会に必要な資質・能力の育成
2. 学校運営協議会を中心とした、育成を目指す子ども像の共有、協働

II. 子どもたちが成長を実感できる、連続した学びを目指す

1. 幼児教育・保育と小学校教育の接続
2. 守口市の小中一貫教育を次の段階へ
3. 地域や社会の課題解決に参画する態度の育成

III. 子どもたちが安全・安心な学校生活を送り、多様な学びが可能となる学習環境を実現する

1. 多様な子どもたち一人一人が主体的・協働的で深い学びを行う学習環境
2. 子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保できる学習環境

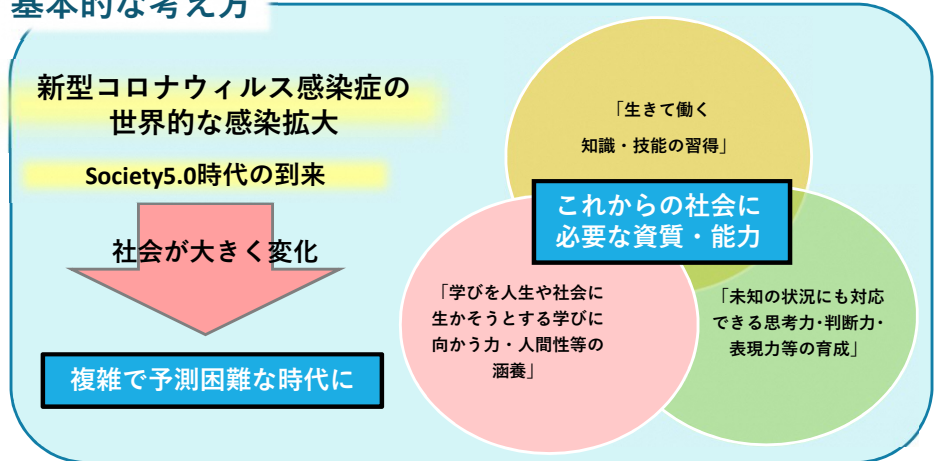
IV. 子どもたちが社会性を育み、協働できる学校を目指す

1. 集団生活や教科指導が可能な学校規模・配置の最適化
2. 社会に包容された学校を目指して

I.子どもたちが社会とのつながりの中で学び、自分の力で人生や社会をよりよくしたいと思う、学びを目指す

1. これからの社会に必要な資質・能力の育成

基本的な考え方



現状

●資質・能力の育成を目指した取組み

「守口市学力向上プラン」による『主体的・対話的で深い学び』の推進

授業改善を推進

「わかる」「できる」授業づくり

●令和3（2021）年度 全国学力・学習状況調査結果

学力調査

- ・「知識・技能」 正答率70%以上
- ・「読むこと」、「図形」 正答率が低い

学習状況調査

「将来の夢や目標」や「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」が全国よりも低い

子どもたちの学力は概ね定着

「思考力・判断力・表現力等」の育成が課題

自己肯定感や地域課題解決の育成が課題

提言

これからの社会に必要な資質・能力の育成

- ◎『主体的・対話的で深い学び』を通して、すべての子どもたちが「わかる」「できる」「おもしろい」授業づくりを推進
- ◎子どもたちの資質・能力のうち、特に「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」についての実践研究

2. 学校運営協議会を中心とした、育成を目指す子ども像の共有、協働

基本的な考え方

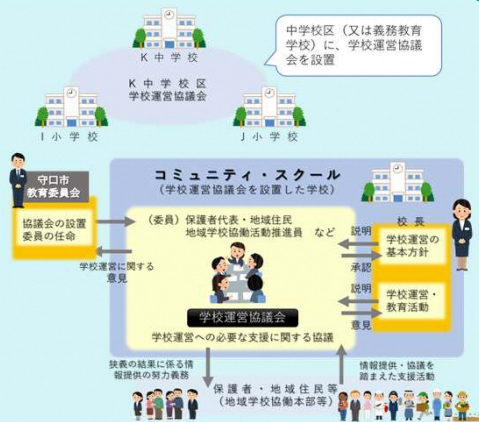
●守口市の教育理念

『郷土を誇りに思い、夢と志をもって、国際社会で主体的に行動する人の育成』

●守口市のめざす教育

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活かした学校・家庭・地域の連携と協働を重視

「社会に開かれた教育課程」の実現



現状

●さつき学園学校運営協議会 「さつきフレンド」での取組み

- ・「地域とともにある学校をつくる」を目指し、教育課題別に部会を設けるなど機動的な対応や180名を超える学校支援ボランティアとの協働活動を行うにあたり、行事カレンダーを作成し、情報共有している。
- ・在籍時や卒業生から、支えてくれている人々への感謝の言葉を自然に発するようになり、人格形成にも大きな役割を果たしている。

●庭窪中学校運営協議会での取組み

庭窪中学校区ふれあいフェスタを開催し、児童生徒や地域住民が参加し、吹奏楽やダンスの披露、スポーツ体験、子ども会議などを行っている。

提言

学校運営協議会の充実

- ◎ 地域住民や保護者の参画意識の醸成とともに、専門的な知見を有する関係機関、大学、企業、非営利団体、個人等からの協力を拡大
- ◎ 全市的な情報共有や提供体制、学校運営協議会委員やボランティアに対する研修、市外からのボランティア募集など教育委員会が学校運営協議会を支援

II 子どもたちが成長を実感できる、連続した学びを目指す

1. 幼児教育・保育と小学校教育の接続

基本的な考え方

課題：小1プロブレム

小学校に入学したばかりの子どもたちの
 落ち着かなさが続いてしまう状態

課題の解決

幼児教育・保育と小学校教育の接続や、義務教育終了後を見通した、地域や社会の課題解決に参画する態度の育成が重要！

現状

●守口市での幼児教育と小学校教育をつなぐ取組み

就学前の子どもたちが、小学校の見学や体験を実施

●キャリア教育の充実

小学校から高等学校までの「キャリア・パスポート」を導入(令和2年度)

子どもたちが、中・長期的に学びを振り返り、将来を展望するとともに、自己有用感の醸成や自己変容の自覚につなげる



●下島小学校での取組み

小学生が幼稚園児と一緒に、グラウンドゴルフを通じて交流し、幼稚園児が小学校入学への期待を膨らませるとともに、小学校の児童は自分の成長を自覚するきっかけとなる。

提言

幼児教育・保育と小学校教育の接続、キャリア教育の充実

- ◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた、小学校におけるスタートカリキュラムの充実と非認知能力育成のための職員の合同研修等の推進
- ◎小・中・高等学校を通じたキャリア・パスポートを活用し、自らの生き方を考え主体的に進路を選択できるよう、キャリア教育の推進

郷土を愛する心を育む教育の充実

- ◎「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点を取り入れた、地域や社会の課題を解決する学習活動の推進
- ◎地域と協働し、守口市について体系的に学ぶ「もりぐち学」を推進し、子どもたちが、郷土を愛する心を育む

2. 守口市の小中一貫教育を次の段階へ

基本的な考え方

●施設連携型を基軸とした小中一貫教育を全中学校区で推進(平成26年度～)

確かな学力の定着、中1ギャップの解消に向けて

小中一貫教育の3本柱

地域に根ざした学校づくり

小中連携を軸に各中学校区の特徴ある教育活動の推進

現状

●「めざす子ども像」の設定・共有

義務教育の9年間を見据え、小・中学校が一緒になって考え、子どもの発達段階に応じた指導を行いながら、豊かな学びをつなぐ

●義務教育学校さつき学園の成果

前期課程の子どもたち

- ・上級生に見守られる
- ・9年間の学校生活の見通しをもつことが可能



後期課程の子どもたち

- ・責任ある行動への自覚が芽生える
- ・人格形成面で大きな成果



●錦中学校区での取組み

小中連携教科指導のための加配教員を配置し、算数・数学について、体系的なカリキュラムの計画・実施し、小学校算数でつまづきやすい内容（小数や図形など）の定着を目指している。

教職員など

一つの組織運営体制により、情報共有が円滑となり、効率的・効果的な教育を実現



提言

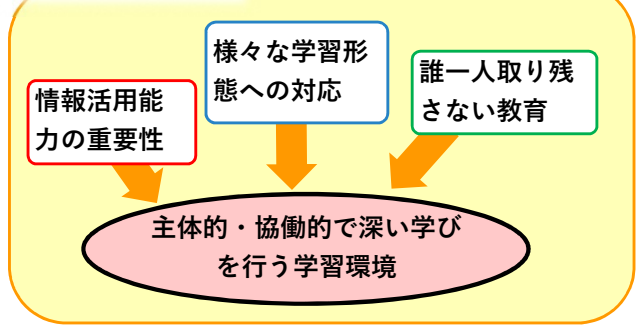
守口市の小中一貫教育を次の段階へ

- ◎全ての中学校区で、特色ある小中一貫教育を充実し、義務教育学校や併設型小・中学校を目指す
- ◎義務教育学校さつき学園は、教育課程の特例等を積極的に活用し、小中一貫教育を牽引（新教科等の創設、学年段階間での指導内容の入替え等）

Ⅲ 子どもたちが安全・安心な学校生活を送り、多様な学びが可能となる学習環境を実現する

1. 多様な子どもたち一人一人が主体的・協働的で深い学びを行う学習環境

基本的な考え方



現状

- 個別最適な学びと協働的な学びの実現
 - ・主体的で対話的で深い学びをめざし、子どもたちの視点に立ち、「わかった！できた！おもしろい！」と思える授業づくりを推進
 - ・STEAM教育等教科横断的な学習の推進と新しい時代の学びに対応した学習環境の充実
- 読書活動の推進
 - ・全国と比べ、不読率が高いため、朝読書などによる読書習慣の定着を促進

●情報通信技術を活用

- ・1人1台端末や学習者用デジタル教科書等の活用
- ・オンライン授業の開始、情報モラルの育成

●義務教育学校を全ての子どもたちに実質的に保障

- ・障害のある子どもたちが、自立し社会参画できるように、一人一人の状態等に応じた学習・指導方法の工夫
- ・不登校の子どもたちへ、教育相談、別室学習、適応指導教室「ふれあい教室」での学習を支援



提言

個別最適な学びと協働的な学びを実現

- ◎ 主体的・対話的で深い学びや、子どもたちの特性や学習の定着度等に応じ、様々な学習形態に対応できる教室、設備や教材などの環境を整備
- ◎ 学習環境及び避難所の機能の向上から、屋内運動場への空調設備について、計画的な整備を推進

情報通信技術を活用した学校教育の質的向上

- ◎ 子どもたちの発達段階を踏まえた情報活用能力、情報モラルを系統的に育成
- ◎ 学校のICT環境の整備とともに教職員の指導力の向上を推進し、学習方法等開発など教育の質的向上を行い、世界に誇れる守口市のICT教育を目指す

読書活動の推進「読書」ゼロの解消

- ◎ 学校司書を全校に配置したり、蔵書のデータベース化など学校図書館の機能の充実

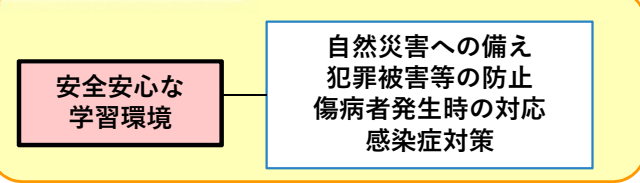
義務教育を全ての子どもたちに実質的に保障

- ◎ 障害のある子どもたちに対し、教職員や特別支援教育支援員の配置、校内体制及び関係機関等との連携体制の整備など、特性に応じた特別支援教育を充実
- ◎ 不登校の子どもたちが、自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指し、一人一人の不登校事由や意向等を踏まえた学習支援



2. 子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保できる学習環境

基本的な考え方



現状

- 自然災害への備え
 - ・学校施設の耐震化100%
 - ・学校安全計画や危機管理対応マニュアルの策定
- 防犯への取組み
 - ・校門の施錠やインターフォンの設置等

●感染症対策

感染症拡大防止と学習機会の保障のための基本方針等を策定

●さくら小学校での取組み

令和3（2021）年に開校した新校舎は、大阪府警察守口警察署大枝交番を一体的に整備し、安全・安心な学校です。

提言

自然災害、火災等への備え

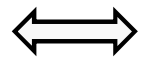
- ◎ 学校防災に関する計画及び対応マニュアルを不断に見直し、家庭、地域、関係機関と連携した実践的な避難訓練を行い、防災体制を強化

感染症対策

- ◎ 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」を踏まえた、感染予防のための設備・備品等の常備

事件・事故等への対応

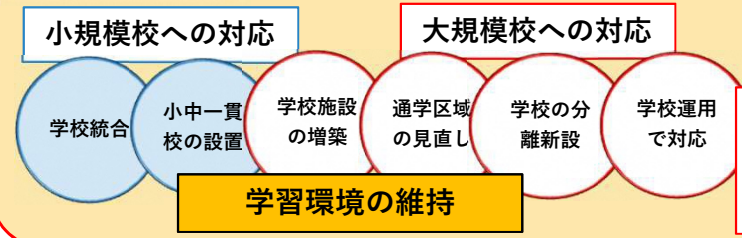
- ◎ 防犯の向上と地域との協働が両立できる学校のセキュリティゾーンの計画



IV.子どもたちが社会性を育み、協働できる学校を目指す

1. 集団生活や教科指導が可能な学校規模・配置の最適化

基本的な考え方



現状

●小規模校の統合等

※学校規模は見直さずに、運用での対応を行う。
(例) 教頭を複数配置する
教職員数を増やす等

- ①樟風中学校 (平成27年開校)
- ②さつき学園 (平成28年開校)
- ③よつば小学校 (平成28年開校)
- ④寺方南小学校 (平成30年開校)
- ⑤さくら小学校 (平成30年開校)

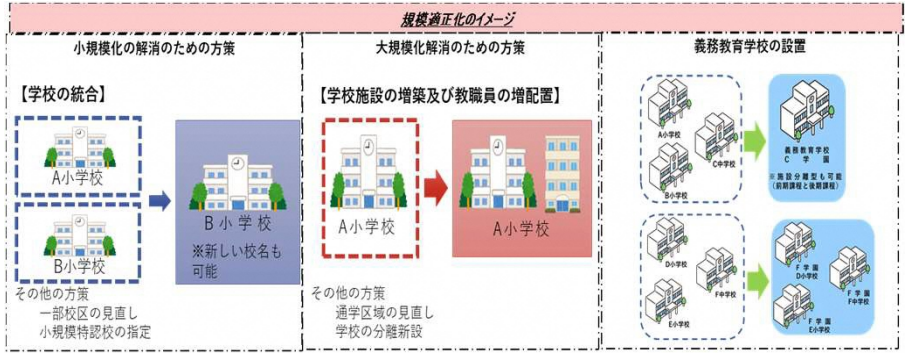


提言

(平成24年3月策定)
『守口市学校規模等適正化基本方針』の改訂が適当

- ・規模適正化の目的: 子どもたちの学習環境の向上
- ・規模適正化の考え方: 守口市独自の分類から国に合わせる。
小規模校は長期的な人口動態の推計で適正化を検討
- ・規模適正化の方策: ①小規模校解消 ②大規模校解消
③義務教育学校等の設置も検討

旧来の規模の基準 (学級数)	小規模	準適正規模 (小)	適正規模	準適正規模 (大)	今後の規模の基準 (学級数)	過小規模	小規模	標準規模	大規模	過大規模
小学校	8以下	9~11	12~18	19~24	小学校	5以下	6~11	12~18	19~30	31以上
中学校	-	-	18~27	-	中学校	2以下	3~11	12~18	19~30	31以上
義務教育学校	-	-	-	-	義務教育学校	-	-	18~27	-	-



検討が必要な校区

- ◎八雲中学校区: 校舎の老朽化が進むとともに、令和3年度時点で八雲小学校、下島小学校、八雲中学校が適正規模以下
八雲小学校と下島小学校の統合の検討に際し、十分な校地を確保した上で、八雲中学校を含めた義務教育学校の設置を検討
- ◎第一中学校区: 児童数急増による守口小学校の教室不足
教室不足への早急な対応。校区変更を伴わずとも、中長期的観点から児童・学級数の変動に対応できる、学習環境の向上を見込める施設を整備
- ◎錦中学校区: 校地が隣接する1小学校1中学校の校区
小中一貫教育の推進にあたり、施設の広さ等の確保や学校運営上の工夫について研究し、義務教育学校又は併設型小・中学校への再編を検討

2. 社会に包容された学校を目指して

基本的な考え方

- 2050年脱炭素社会の実現に向け、施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入推進
- 公共施設等との複合化・共用化を促進し、地域や社会との連携・協働を図る

現状

●統合新設校での取り組み

- ・自然採光や通風の仕組みを導入し、断熱性を高め、温熱環境に配慮
- ・地域に開かれた学校として、保護者や地域と交流

提言

社会に包容された学校を目指して

- ◎ 2050年脱炭素社会の実現に向けて、環境学習での活用や地域の先導的役割を果たすとともに、他の公共施設などとの複合化・共用化等を促進
- ◎ 八雲中学校区や第一中学校区は、早急に施設整備を検討する一方で、他の学校も、長寿命化改修や屋内運動場への空調設備の設置を計画的に整備